



こうごしま No. 193 議会だより

令和4年9月2日 発行／神津島村議会 編集／議会だより編集委員会 ☎ 04992(8)0011
議会だより編集委員会 委員長 清水 勉 副委員長 鈴木 佑典 委員 関 真樹 委員 小林 正吾郎
<https://vill.kouzushima.tokyo.jp/> E-mail kouzu@vill.kouzushima.tokyo.jp



神津島の星空

写真は神津島在住の藤井智久さんの作品です。

目 次

- ◇令和4年第2回定例会 / 令和4年第2回臨時会 2
議決結果
- ◇令和4年第2回定例会 3～4
2名の議員が一般質問
- ◇令和4年第2回定例会 5
審議された議案の質疑応答、議会日誌、編集後記
- ◇島民インタビュー 6
神津島の写真を撮り続ける藤井智久さんへのインタビュー

神津島村議会第2回定例会 議決結果

開会日：6月14日(火)・15日(水)

議案番号	議 案 件 名	審議結果
承認第1号	専決処分を求めることについて（神津島村税条例の一部を改正する条例）	原案承認
承認第2号	専決処分を求めることについて（令和4年度東京都神津島村一般会計補正予算（第1号））	〃
承認第3号	専決処分の承認を求めることについて（令和4年度東京都神津島村簡易水道特別会計補正予算（第1号））	〃
承認第4号	専決処分の承認を求めることについて（令和4年度東京都神津島村農業集落排水特別会計補正予算（第1号））	〃
議案第25号	神津島村常勤職員に対する給与条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第26号	神津島村議会議員及び神津島村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例	〃
議案第27号	神津島村公営住宅条例の一部を改正する条例	〃
議案第28号	清掃センター施設整備更新工事請負契約	〃
議案第29号	神津島村法面改修工事（村道第111号線）請負契約	〃
議案第30号	小学校屋内運動場サッシ等改修工事請負契約	〃
議案第31号	令和4年度東京都神津島村一般会計補正予算（第2号）	〃
議案第32号	令和4年度東京都神津島村簡易水道特別会計補正予算（第2号）	〃

神津島村議会第2回臨時会 議決結果

開会日：7月12日(火)

議案番号	議 案 件 名	審議結果
議案第33号	大沢配水池新設工事請負契約	原案可決
議案第34号	令和4年度東京都神津島村一般会計補正予算（第3号）	〃

一 般 質 問

清水 勉 議員



少子化対策について

本村では、少子化対策の一環として、保育料無料化、神津高校在学生徒医療費助成等様々な支援を行っているが、近年のコロナ禍による環境の変化等も重なり、思うような出生率の増加に至っていないのが現状である。

本村における出産に対する支援は、出産前後の健診に係る宿泊費、里帰り先までの往復交通費。出産支援特別助成金、東京都外等出産妊婦健診などの助成が行われている。

質— 現有支援策だけでは、不十分ではないかと考える。新たな支援策として、第1子目含め出生数を増やす環境づくりとして、「出産祝い金」制度の創設。支援額は、例えば、第1子10万円、第2子20万円、第3子30万円、といった多子になればなるほど増額するような支援策を検討すべきと考える。

答— 1人の女性が15歳から49歳までの間に出産する人数は、本村においては187人。この数値が最低でも2人以上を超えないと人口減少が進み深刻な問題となる。島嶼部においては、出産支援金（島外医療機関への通院等含む）として1人当たり一律5万から50万円を支給。本村では、支援限度額が34万8千円。今後、出産祝い金制度について、金額を含め検討していく。また、少子化対策として婚活支援事業についても検討していく。

住民福祉の向上について

質— 島外医療機関にかかる交通費助成事業は、船賃、航空賃、宿泊費等が助成される。

患者付添人については、医師が必要と認めた場合のみ対象。患者自身の精神的不安感など止む無く付き添わなければならない事情もある。昨今のコロナ禍等含め長引く経済不況もあり、各家庭への金銭的負担も相当なものとして理解している。

負担軽減を図るため、付添人への助成並びに助成額の引上げについて、検討すべきと考える。

答— 平成29年度の利用人数は32名。令和3年度は50名の方が利用している。年々、利用者も増加しており、適用範囲を拡充している。付添人の助成については、申請者の通院状況等を確認し、申請時に診断書に付添人が必要と明記されていれば助成対象としている。精神的、身体的に一人での移動が出来ない場合や事故防止、子供の付き添いなど、相談して頂ければ対応する。

今後、制度内容を再度精査し様々な状況を見極めた上で検討していく。

任期満了に伴う 次期村長選挙への出馬について

質— 次期村長選出馬への意思、仮に出馬に至った場合、今後の神津島をどのようにして行くのか。

答— 公約について検証すると、新清掃センターの建設は、穴の山建設計画で2度の入札を実施するも契約に至らなかった。その後、現施設を調査し、改修工事を行えば15年以上、延命化が可能であるとの調査結果を得た。今後、移転先については、現在でも桑沢地区にするべきであると考えている。

地場産業の振興、活性化については、レモン栽培の推奨、星空保護区の認定を受け、今後の観光活性化に一石を投じた。

老人介護施設職員の処遇改善については、賞与3ヶ月間を4ヶ月間に改善。

葬祭場整備については、与種広場の古民家を改修し、広く活用できる施設として整備が完了している。

公約全てが完全に実現されたわけではなく、道半ばであると考えている。政策理念に掲げた「誰もが健やかで、生き生きと活力のある島づくり」の実現のため、引き続き村政を担う覚悟で決意を新たにしている。

一 般 質 問

鈴木 佑典 議員



住民への情報発信について

④—住民への情報発信は、文字放送・村内放送・広報こうづがあり、重要な情報源であり行政サービスに欠かすことができない。

住民の声として、文字放送では、知りたい情報を待たなければならない。仕事や外出中は確認できない。突発的な案件情報は表示がされない。

村内放送では、強風時や環境の変化によっては聞こえない、聞き取れない。地名や地区の場所が分からない。家庭によっては電波が入らない。

広報こうづでは、再度確認の必要が生じる。多様化する住民や環境の変化、神津島住民全ての方により分かりやすく確実な情報発信が求められると考えるが。

⑤—文字放送は放送局として放送する番組の一部であり、緊急的な内容は放送していない。文字放送を含めた番組はテレビにて視聴して確認してほしい。文字放送の情報発信については、放送機器の更新等を現在検討している。

防災行政無線の受信感度問題は妨害電波を確認しており、現在対策を検討している。

広報こうづは、村のホームページにて必要な情報を確認することが可能。知りたい情報を待つのではなく、自らも情報を積極的に確認することも重要である。

災害時の情報発信について

④—災害発生時には、いかに素早く情報を集め、正しい情報を住民に漏れなく届けるかが重要である。

課題として、庁舎被災時に住民へ情報伝達手段の困難、職員の情報収集・対応などの苦労も推察される。庁舎被災時など、現状の情報発信が出来ない場合の対策は。

⑤—村役場放送設備親局が被災した場合は移動親

局で対応可能である。移動親局を被災影響の受けにくい場所に設置し、切り替えて対応することができる。

住民の安全・安心確保のため今後、施設の整備・計画を進めていく。

自治体公式LINEの提案について

④—情報を確実に配信し正確に受け取り、災害時ツールとして有効活用となる自治体公式LINEを提案。

自治体公式LINEとは、東日本大震災をきっかけに開発され、地方公共団体を対象に無償化プランを提供。SNSの中でも圧倒的に全世代の利用率が高く、確実性・セグメント（区分）・災害時活用などが住民メリット。確実性・写真や地図・災害時活用・相互による情報コミュニケーションなどが行政メリット。

多様化する住民・環境変化への対応・災害時ツールとして有効。行政職員の負担軽減などにもつながると考えるが。

⑤—情報発信については、島民向けの情報、一般公開など、活用する際の重要な判断要素となる。自治体公式LINEは、本村のような規模の小さい自治体では不向きであると考え。数万人規模の自治体では広く住民に情報を伝達する手段として活用されているが、本村では、これに代わるものとして自主放送、防災行政無線、ホームページ、隣組での文書等の配布で情報発信は出来ている。

自治体公式LINEはアプリを操作できる方に限られるため、全員に情報は伝わらない。現在の職員体制で十分に対応できない。情報発信の一般公開については、クリアしなければならない要素があり、一般公開は現時点では考えていないが、今後さらに良い方法、伝わりやすい方法などあれば検討したいと考える。

令和4年第2回神津島村議会定例会

◎ 審議された議案の質疑応答 ◎

専決処分の承認を求めることについて 令和4年度東京都神津島村一般会計 補正予算（第1号）

- 〔質〕—とうきょうママパパ応援事業の内容と本村の対象人数は。
- 〔答〕—コロナ禍において、家事育児ヘルパー等の訪問支援サービスが行き届いていない対象家庭に対し、家事支援用品の購入支援を行うことで、子育て家庭の負担感の軽減を図る目的で実施。家事負担の軽減につながる時短用品・スマート家電を購入することができる。対象人数は43名を見込んでいる。

小学校屋内運動場サッシ等改修工事 請負契約

- 〔質〕—小学校屋内運動場サッシ等改修工事の内容は。
- 〔答〕—非構造部材点検調査において、指摘があった小学校体育館サッシ等について改善を図り、児童の安全を確保する。体育館の窓ガラスはフロートガラス。強度が低く、耐震基準を満たしていないため、耐震基準の強化ガラスに変更。熱中症、コロナ対策として換気ができるよう網戸の設置も行う。大型車両等が校庭を往来するため工事完了後に芝の張り替えを実施する。

議会日誌

令和4年

- 3月 8日 令和4年第1回定例会(10日まで)
- 29日 令和4年第1回定例会(再開)
- 4月 16日 阿波命 例大祭
- 27日 神津島村表彰式
- 5月 10日 神津島村議会タブレット研修会
- 11日 ジュリア東京会議

- 東京都町村議会議長会第1回定期総会
- 東京都町村議会議員講演会及び意見交換会
- 16日 議会だより編集委員会 (192号)
- 令和4年第1回定例会会議録署名
- 21日 第83回黒船祭
- 23日 令和4年度大島支庁管内都事業説明会
- 30日 町村議会議長・副議長研修会
- 6月 9日 石原慎太郎 お別れ会
- 10日 令和4年第2回定例会議会運営委員会

編集 後記

先日、茨城県境町へ自動運転バスの視察へ行ってきました。

令和2年11月に運行開始、自治体が自動運転バスを公道で定常運行するのは国内初だそうです。車両はフランス製、固定された運転席はなく手動の場合はタッチパネル等で操作していました。乗車定員は15人。町内には鉄道路線がなく、路線バスはあるものの高齢者の地域内移動が課題だったようです。本数は少ないものの、スーパーマーケットや病院の前に停留所があり、運行ルートも徐々に増えつつあります。

オペレーターの方にお話を伺うと、完全自動化には課題がまだあり20%程度は手動で行っているそうです。雑草が車道にはみ出ていると急停止する、スーパーなどの敷地から車道に出る際の歩行

者確認、工事現場に多量の建築資材が置いてあるとGPSに誤差が生じるなど解決するにはひとつひとつ大変そうだなと感じました。今すぐに完全自動化というのは無理なようですが、道路交通法の改正も進んでおり近い将来には可能になるかもしれません。



「議会だより」編集委員会一同

- 委員長 清水 勉
- 副委員長 鈴木 佑典
- 委員 関 真樹
- 委員 小林 正吾郎

島民
インタビュー神津島の写真を撮り続ける
藤井 智久 さん

プロフィール 藤井 智久

星景写真家、神津島出身

2013年より写真活動を始め、島の星が綺麗な事に気づき、神津島の星空の魅力を発信している。

現在は KozuPhotoJack 名義で島の動植物を観察し調査活動しながら島の生き物たちを見守っている。

Q. 写真撮影を通して生まれ育った神津島をどのように感じていますか？

初めて参加した写真展で、星空の写真を出展したんですが、見に来てくれたお客さんから「神津島の星空って綺麗なんですね」と言われたことがきっかけで、それまで当たり前のように見ていた島の星空の魅力に気付く事ができました。

そして神津島の魅力である星空をたくさんの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

Q. 星空写真の魅力とは？

2013年に姉夫婦の影響で星空を撮り始めたんですが、初めは星が写っただけで感動していました。

そこから星空だけじゃなく、風景と一緒に撮りたいと思うようになり、今の得意としている星景写真を撮るようになりました。

神津島は集落が一つしか無いので星を撮るにも集落の灯りの影響も受けづらく、島の周囲にも近い島が無いので、星の写真を撮影した時に肉眼では見えない暗い星も撮ることができ、冬の淡い天の川などもくっきり写すことができます。それが魅力だと感じています。

星空保護区に選ばれたので今後はさらにたくさんの人に島の星空を撮影しに来てもらいたいと考えています。

Q. 伊豆諸島の他の島でも撮影されていますが理由は？

初めは神津島の星空の写真で写真展をしていたんですが、神津島という名前の認知度が低く、たくさんの人に知ってもらうにはどうしたら良いかと考えました。

そこで伊豆諸島という括りなら神津島を知らなくても他の島を知っている人が見に来てくれるのでは無いかと考え、伊豆諸島全島巡り、星の写真を撮り、2019年に伊豆諸島の星空写真展を行いました。

たくさんのお客さんが来てくれ、神津島を含めて伊豆諸島を知ってもらうことができました。

今では神津島のみならず、伊豆諸島の魅力を伝えたいと考える様になりました。

Q. 今後の神津島はどうなっていけば良いと思いますか？

神津島は日本で2番目の星空保護区に選ばれました。これは本当に凄い事だと感じています。

星空保護区の意味とはお客さんの集客を目的としたものでは無く、光害という環境問題です。

例えば街灯の上に向いていた無駄な灯りを減らして自然環境に配慮しようという取り組みです。

神津島では2020年に星空保護区に認定されました。2021年には前浜で海亀の産卵が約10年ぶりに復活しました。

神津島の星空の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらい、今後もこの豊かな自然を守っていききたいと思います。

